

庁舎の概要

本施設は、昔から変わらない安心院の特徴ある景観と、新たに創られる景観が調和し、新たな景観の一つとして地域に受け入れられていくことが重要であると考えました。

そのため、安心院を象徴する施設として市産木材を内外装に活用し、訪れた人が先人の遺した財産としての木の温もりを感じ、思い思いの場所でそれを実感することにより、地域と密接に結びつき、快適に過ごすための工夫が凝らされています。

基本方針

1 市有木材を活用した木の香る施設

市有林を最大限に活用し、地域のみなさんに愛され、交流の象徴となるよう、建物中央部に2層吹き抜けの交流ギャラリーを配置し、木造架構の見える大屋根で全体を覆い、木の温もりと香りに包まれた開放的な空間を創出。

2 便利で安全で効率的に連携する施設

安心院支所と安心院中央公民館の機能に加え、各種団体の事務所を一元化し、利用頻度の高い窓口を来庁者にわかりやすく配置することで、効率的なサービスを提供。

同一敷地内にある安心院文化会館および宇佐市図書館安心院分館との施設連携に配慮。

3 市民が訪れやすく親しみのある施設

安心院地域の歴史や文化、セールスポイント、まちづくりの方向性などの情報を発信するためのスペースとなる盆地ギャラリーや市民が交流し憩うことのできる場として多目的ホールを設置。

4 多様な機能で生活圏を確保する施設

地域の人々の交流の場となる公民館、バスを待つためのターミナル、市内外からの観光客を受け入れる観光協会など対象者や運営時間の異なる複数の機能を一体化。

地震や風水害等の災害が発生した際は、災害時の拠点として避難所などに活用するための耐震機能を確保。

いつも賑わう“みんなの家”

全方位からのアクセス

建物の全方位に出入口を設け、周辺の諸施設（文化会館、学校、商工会館、保健福祉センターなど）からのアクセス性を向上

見せる梁

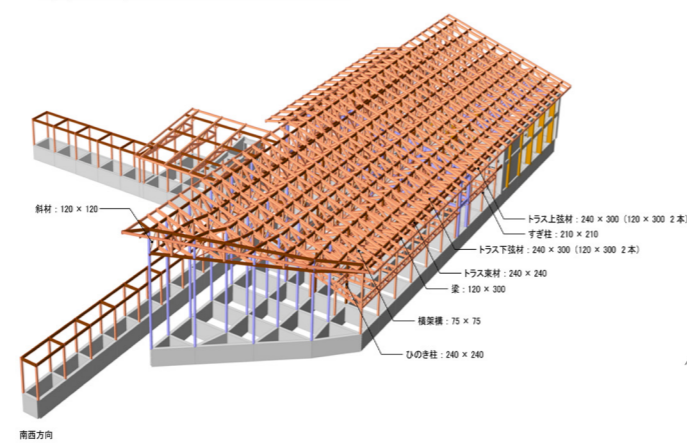
市産材を活用した箇所を訪れた誰もが実感できるよう、屋根を支える梁（トラス梁）を可能な限り見せる設計

集約された窓口

それぞれの機能の窓口が、エントランスから見渡せる位置に集約されていて、多様な利用者が目的地を判別しやすい

回遊性のある空間

複数の機能をそれぞれの対象者などを考慮して分散配置し、回遊性のあるロビーでつなぐことで様々な活動の様子や賑わいが見える



フロアマップ

